

区政のここをきく

9月12日、13日の本会議にて、一般質問が行われました

一般質問要旨



子ども達の笑顔のための支援とこれからのまちのデザインについて

明戸真弓美(自民党)



子ども達の笑顔のために

問 出産費用は年々増加し、請求額が出産一時金を上回る現状では次の出産を躊躇してしまいかねない。区として、出産費用の経済的負担軽減策を講じるべきと考えるが、区の見解を問う。

答 国が令和5年度から出産一時金の支給額を大幅に増額する方針を示しているため、動向を注視し、増額が決定した際には速やかに対応していく。

問 昨年9月に施行された、いわゆる医療的ケア児支援法について、区は迅速に対応してきたことを評価する。一方で、医療的ケア児に対する看護師派遣制度については、支援が十分に行き届いていないと考える。今後も更なる取り組みの充実を求め、現段階での進捗状況について、見解を問う。

答 今年度から医療的ケア児等地域コーディネーターを配置し、地域の関係機関との連携を図っており、留守番看護師派遣事業の対象要件の緩和は今年度中に行う。さらに保育施設での医療的ケア児受け入れに向けた新たな補助事業を創設するなど、具体的な支援策を検討している。

これからのまちのデザインについて

問 町屋さくらの廃止に伴い、区は「福祉的な視点での新たな交通を検討する」と約束しており、区において何らかの新たな交通を検討すべきと考えるが、その後の検討状況について問う。代替交通の検討にあたっては、できることは全て行い、事業者や地域住民、利用者の意見をしっかり聞いて、次の一手を検討するよう求める。

答 新たな交通については様々検討してきたが、一般、利用者の予約を自動的に調整し、相乗りを実現するシステムを活用したデマンド交通について、

事業者から提案があった。課題はあるが利用者ニーズを一定程度満たすものと考え、関係する事業者の考え方を聞きながら、検討を継続していく。

問 ゆいの森通りについては、都市計画道路整備に併せ都電との間に緑道を整備するが、そこには是非、桜とバラを植栽して欲しい。都電と桜並木とバラのミュージアムのように整備すれば、ゆいの森との相乗効果も生まれ、新たな観光資源となることも期待できる。完成後には、バラを区の花として加えることを提案するが、見解を問う。

答 緑道は、人々が集い、憩える場所となるよう考え、桜やバラを活かすよう検討している。区として、自然公園や都電、ゆいの森が近接する良好な立地条件とポテンシャルを最大限活用し、景観に優れた道路となるよう取り組んでいく。バラを区の花に追加することは、時期を見て検討していく。



ゆいの森と都電の間の整備を予定しているスペース

問 西日暮里再開発のにぎわい創出に寄与すると考えられる屋上の活用を実現して欲しい。また、再開発後のエリアマネジメントについては、住民・事業者・地権者等が主体的に取り組めるよう、東京都からまちづくり団体の登録を受け公開空地进行積極的に活用すべきと考えるが、区の見解を問う。

答 商業棟の屋上の活用が実現すれば、地域の交流や憩いの場の役割を担うと認識しており、室外機の設置スペースや住民のプライバシー等の課題はあるものの、一般開放に向けて準備組合に要請していく。まちづくり団体の登録制度については、主に都心部での実績があるが、制度の活用を含めたエリアマネジメントを準備組合と検討していく。

その他の質問項目

- 今後の財政運営について
- 新型コロナウイルス感染症対策等について
- アフター・ウィズ・コロナ：心の復興について
- 地球温暖化対策について
- シン・地域防災計画について



ヤングケアラー全生徒対象調査の実施と区内商店のキャッシュレス・ポイント還元事業について

増田 峰子(公明党)



ヤングケアラー全生徒対象調査の実施について

問 ヤングケアラーを発見し支援につなげるには、学校の役割が非常に大きい。区は児童相談所設置区であり、子ども施策の先進区として本領を発揮する時ではないか。ヤングケアラーの声なき声を着実に受け止めるため、学校を通し小中学校全生徒対象の実態調査実施を求めるが、見解を問う。

答 区立小中学校全児童生徒を対象に生活実態に関する調査を実施する。調査結果をもとに学級担任等が聞き取りを行い、児童生徒の実態に応じて利用可能なサービスや制度を紹介し、関係諸機関による支援を行えるよう連携体制を強化していく。

区内商店のキャッシュレス・ポイント還元事業への参加促進について

問 キャッシュレス・ポイント還元事業は、物価高騰対策に有効である。二次元コードの利用で機器の導入費がかからず、キャッシュレス未導入の区内商店の参加が、この事業成功のカギである。あらゆる媒体を使って周知を図るべきと考えるが、区内商店の参加促進について区の見解を問う。



◀ 区内の商店街の様子

答 二次元コード決済の利用に20%分のポイント

を付与することで、区内消費に効果が期待される。区商店街連合会など関係団体に周知を図るほか、コールセンターやWEBサイトの設置など、区内事業者のデジタル化の契機と捉え参加を促す。

その他の質問項目

- マイナンバーカード普及拡大の支援について



コロナ感染拡大や物価高騰などから区民の命・暮らしを守ることと荒川区のまちづくりについて

横山 幸次(共産党)



コロナ感染拡大や物価高騰などから区民の命・暮らしを守るために

問 検査体制の再構築、医療機関支援などの強化とともに、保健所体制を一層強化することを求める。

答 区内医療機関とも連携し、検査体制の充実や薬剤処方の補助等支援を継続する。保健所においても、人材派遣や業務委託等、体制強化に努める。

問 物価高騰、生活困窮に対応した就学援助の対象拡大、学校給食の無料化の実施を求める。

答 就学援助は家庭状況に配慮した対応を行っており、給食無料化は国や都が実施すべきと考える。

問 事業継続に向けた給付型支援と、各種設備投資補助制度の限度額、補助率などの拡充を求める。

答 資金繰りの新たな支援は補正予算で対応、設備投資については年度当初から制度の拡充を図った。

問 扶養照会については、本人の意向を最大限尊重し、申請を受け付け、「生活保護は国民の権利」とのポスターを区の窓口全てに掲示すること。

答 個々の状況に配慮した上で扶養照会を行っている。生活保護の周知については、冊子を関係窓口等に配置するなど、周知方法を工夫している。

荒川区のまちづくりについて

問 西日暮里再開発において、大型商業施設の建設が区内商業へ与える影響について、区の認識を問う。

答 商店街や個店ならではの強みを生かせるよう支援し、大型商業施設との共存と活性化を図る。

問 ひとり親世帯や高齢者向けの家賃助成制度の実

施を前提に、区の住宅政策を検討すべきである。

答 公営住宅の供給や転居費用の助成等幅広く行っており、新たな家賃助成等は必要に応じ検討する。



◀尾久の原公園の隣町屋5丁目住宅区民住宅

その他の質問項目

○日本国憲法・民主主義と地方自治をめぐる問題について



荒川区自転車総合活用推進計画とボランティア活動等の区民活動活性化への支援策について
竹内 明浩
(ゆいの会)



荒川区自転車総合活用推進計画について

問 新1年生に自転車ヘルメットを贈呈し、着用の習慣化を図ってはどうか、区の見解を問う。

答 新1年生へのランドセルカバー配布や様々な交通安全啓発の中で着用率向上にも努める。

問 自転車ネットワーク路線整備とは、具体的にどのような路線整備を計画しているのか。

答 優先整備路線の10路線での、自転車通行帯等の設置や、事故の多い交差点の改良を行う。

問 「自転車のまちあらかわ」を広くPRするためのイベント・事業の取り組みを要望する。

答 荒川自然公園内の交通園などで、自転車の良さや楽しさを認識できる取り組みを検討する。



◀荒川自然公園交通園での自転車安全利用講習会の様子

問 自転車版サイクリングマップを作成し、観光アプリへ追加・冊子の作成を提案するが見解を問う。

答 コースの設定には近隣住民の生活環境確保の課題もあり、関係各部署で連携し、検討していく。

ボランティア活動が盛んなまち荒川区区民活動を活性化させるための支援策について

問 ボランティア活動は様々な分野で地域力の向上や地域課題解決につながっており、さらに活発な荒川区にしたいと考えるが、区の見解を問う。

答 生涯学習センターでの相談支援体制の整備や、関係部署等との連携により幅広い支援に努める。

その他の質問項目

○防災対策や災害に強いまちづくりの実現に向けた防災DXの推進について



高校生からの要望と震災時のペット同行避難について

宮本 舜馬
(次世代あらかわ)



高校生からの要望について

問 区では、子ども家庭総合センターという名称で、従来の児童相談所のイメージを刷新し、外観も明るい印象を与えるものに作り上げたが、更に透明性を確保するため、児童相談所および一時保護所への第三者評価を導入することで、運営上の改善点のあぶり出しなど、良い効果を期待することができると考える。是非前向きに検討して欲しいと考えるが、区の見解を問う。

答 児童相談所の第三者評価については、児童福祉法に努力義務と規定されている。子ども家庭総合センターでは、今年度にもまず一時保護所において



◀子ども家庭総合センター

実施し、今後、児童相談所についても、実施を予定している。区としても、第三者評価を通じて、良いところや改善すべきところをしっかりと分析・検証し、より良い運営を目指していく。

問 SDGsの取り組みの一環としてプラゴミの削減対策を提案する。マイミズというアプリを活用し、無料給水スポットを増設すれば、提携している飲食店や商業施設において、新規顧客の開拓に繋がること、児童の見守り強化に役立つなど副次的効果は大きいと考える。マイボトルの普及と給水スポットの増設により、ペットボトル排出量の削減を図ってはどうか、区の見解を問う。

答 マイミズには、区内でも20カ所以上の給水スポットの登録があると聞いており、区でも、6カ所の公共施設に給水機を設置している。区内には、環境活動への関心が高い事業者が多く、給水への協力を呼び掛けることで、プラスチックの排出量削減に繋がると考える。アプリの活用も含め、給水スポットの設置等について検討していく。

震災時のペット同行避難について

問 水害時と違い震災時は一次避難所の運営が町会単位となるため、ペット同行避難の受け入れ体制に地域ごとの差異が生じる。区では、自然公園への避難を促すが、現実的に考え、いつ発生するかわからない震災時において、ペットを自然公園まで連れて行くことが可能なのか。全ての一次避難所での受け入れ体制の整備を求め、避難訓練を通じた町会等への理解促進の進捗状況を問う。

答 一次避難所におけるペットの受け入れは、避難所運営委員会で検討し、受け入れが困難な場合は、荒川自然公園に設置する動物救護センターでペットのみ避難することとなる。今年度も、ケージの設置場所や動線等について、防災区民組織や獣医師会、学校等と協議しており、今後も避難所開設運営訓練を通じて、避難所毎に検討していく。

その他の質問項目

- 喫煙問題について
- 小・中学校での熱中症対策について
- 横断歩道での車の一時停止について
- 荒川区の地域猫活動への支援を一步先へ
- コロナ禍での保育士の業務について

- あらかわ遊園の防犯カメラ設置について
- 若者の声を議会へ



反社会勢力・有害勢力から区民を守り、文化的で暮らしやすい荒川区であるために
小坂 英二
 (日本創新党)



反社会勢力・有害勢力から区民を守るために

問 反社会勢力が公共施設を利用できる現状を是正し、貸し出しをしない旨を規定、周知すべき。

答 地方自治法により、正当な理由がない限り利用を拒めない。安心して利用できる運営に努める。

問 旧統一教会等からの経済的・精神的被害の現状を把握し、カウンセラー派遣等対策を講じるべき。

答 国の合同相談窓口の周知に努めるとともに、保健師による本人、家族への相談支援等を行う。

問 パチンコは政府レベルで違法化すべきであり、先陣を切って区独自の法定外課税を行うべき。

答 法定外課税は慎重に検討すべきであり、国や都レベルでの検討等、動向を注視していく。

文化的で暮らしやすい荒川区であるために

問 外国人人口の激増に危機感を持ち、抑止策として負担金等の制度の導入が不可欠と考える。

答 外国人住民が地域で共生できるよう取り組んでいく。負担金徴収は不適当なものと認識している。

問 全国で3番目に人口密度の高い荒川区で、再開発による人口誘導を改め、流入抑制をすべき。

答 転入の増加は地域の活性化に寄与すると認識しており、活力ある地域づくりを推進していく。

問 閉館するぬりえ美術館を区で運営してはどうか。

答 寄贈予定の作品・資料の受け入れ準備や公開方



閉館前のぬりえ美術館館内の様子

法を検討中だが、美術館の運営は考えていない。

その他の質問項目

○選挙の適正化に区選管で取り組むべきこと



環境問題と教育について

藤澤 志光
(自由民主の会)



環境問題について

問 太陽光発電のパネルは、廃棄に伴う重金属の漏洩による土壌汚染が懸念されるため、エコ助成を行うべきではないと考えるが、区の見解を問う。

答 国や都も脱炭素社会の実現に向け取り組み、リサイクル義務化の検討も進めている。区もエコ助成制度をはじめ、温暖化対策の充実を図っていく。

問 都の太陽光発電の設置義務化に伴い、進行中の三河島北地区や西日暮里駅前地区の再開発にどのような影響が出るのか、区の見解を問う。

答 両地区では、既に太陽光発電設備の設置を計画しており、維持費等についても管理計画に盛り込み、適正な維持管理がなされるものとする。

教育について

問 GIGAスクール構想において、各学校のパソコンの利用状況について問う。また、タイピングの技能向上を提案するが、区の見解を問う。

答 1人1台のタブレットPCを用いて調べ学習や家庭学習の充実に活用している。キーボード付きのため、工夫してタイピングに取り組んでいる。



◀貸出用のタブレットパソコンとWi-Fiルーター

問 多文化共生社会を目指して進めるハートフル事業について、区はどのように進めているのか。

答 外国籍の児童生徒が安心して学校生活を送れる

よう日本語の指導はもとより、他国の文化を互いに尊重し人権教育の視点に立った指導をしている。

その他の質問項目

○コロナ第7波における区の対応について



災害時における備蓄食料と幼児期における身体機能向上に向けた取り組みについて

山田 晴美
(維新・子育ての会)



災害時における備蓄食料について

問 災害時にコンビニの商品を区民に提供頂けるような支援体制を構築し、区民の安心に繋げることはできないか、区の見解を問う。

答 区内スーパーマーケット事業者と優先供給協定を結んでおり、今後、コンビニ等とも連携しながら、災害時の食料供給体制の充実に努めていく。

幼児期における身体機能向上に向けた取り組みについて

問 幼児期における外遊びや運動あそびで身体機能を高め基礎体力をつけることは、その後の学校生活や勉強に大いに影響がある。いま出来る事として、まずは体力測定を実施し、子ども達の身体機能を数値化することで、何をしてあげたらいいのかが見えてくると考える。保育園ではどのように取り組めるか、既に研修会を実施している幼稚園では今後どのように取り組むのか、見解を問う。

答 保育園では、園児の年齢にあった基本的な運動等を行い体力向上に取り組んでいる。運動機能の月齢差が大きく保護者への丁寧な説明が必要と考えるが、今年度は区立保育園において実施方法を検討する。区立幼稚園では、運動あそびについて



◀子どもの運動あそびの様子

の研修会を行うなど、幼児の体力や運動能力向上に努めてきた。現在、区立幼稚園2園において2学期中の体力測定実施に向け準備を進めている。

その他の質問項目

○学童クラブのお弁当提供について



リニューアルオープンした荒川遊園の現状・今後の方針とひきこもり実態調査の実施について
久家 繁
 (立憲民主党)



リニューアルオープンした荒川遊園の現状と今後の方針について

問 リニューアル後のイベント、各種メディアでの取り扱い状況をどこまで把握しているか。また、利用者や区民の声をフィードバックすべきと考えるがどのような取り組みを行っているか。利用者からは、料金設定についての意見も多いが、区独自の施策も展開しながら、金額以上の満足感を得られる施設にするにはどうすべきか、見解を問う。

答 テレビ等多くのメディアに取り上げて頂き、様々なイベントも実施してきた。アンケート等を通し、常にお客様の意見を伺い、お客様視点の運営に努めている。料金設定については、今後の夜間開園に向けて割安なチケットも用意し、満足いただけるよう一層のサービスの充実に努めていく。



◀あらかわ遊園のイルミネーション

ひきこもり実態調査の実施について

問 これまで区として行ってきた支援、取り組みについて問う。また、他自治体の動向と調査結果を踏まえ、区でも充実した支援のため、ひきこもり実態調査の実施を要望するが、区の見解を問う。

答 窓口職員が相談内容を丁寧に聞き取り、関係部

署と連携し適切な支援に繋げてきた。他自治体の調査事例も参考に、ひきこもりの実情を的確に把握できるよう調査実施に向けた検討を行っている。

その他の質問項目

○前立腺がん検診の実施について
 ○就職氷河期世代の支援について



公共施設の整備と若者の自立支援について
菅谷 元昭(自民党)



公共施設の整備について

問 施設の老朽化について、社会環境の変化や区民ニーズも考慮しながら、これまで以上に中長期的な視点から、施設の維持・更新に向けて総合的に取り組んでいくべきと考えるが、見解を問う。

答 中長期的な視点から将来の方向性を示す「個別施設計画」の策定の準備を全施設で進めている。今後、将来にわたる施設需要を見極め、財政措置を含め、計画的かつ着実に取り組んでいく。

問 老朽化の進む本庁舎について、具体的な方向性を示す時期に来ている。大規模改修を行いできるだけ維持するのか、早期に新庁舎を建設するのか、いずれにしても将来的には建替えを行わなければならない、多額な費用が必要となるため、基金の積み立てを始めるべきと考えるが、区の見解を問う。

答 検討委員会を立ち上げ検討を進めており、来年度に一定の方向性を示せるよう検討を加速する。また、令和5年度から基金の積み立てを開始する。



◀荒川区役所の外観

問 区立特別養護老人ホームについても老朽化が進んでいる。用地確保が容易ではないが、仮移転先

を選定・確保し、代替施設を建設することや、既存の施設を活用するなど、幅広く可能性を探るべきと考えるが、区の検討状況を問う。

答 運営を継続したまま大規模改修する方策を模索しており、仮移転先に代替施設を整備し順番に改修する方法や、既存施設を用途変更し改修期間中の代替施設とする方法等、検討を進めている。

問 都の浄水場跡地に整備する公園には、一般的な公園機能に加えてボール遊びが出来るスペースの確保や、地元の方々に親しんでもらうため、愛称等の公募を提案するが、区の見解を問う。

答 浄水場跡地の整備については、遊戯広場のボール遊び場の継続の声もあり、整備方針の検討にあたっては様々な要望に応えられる公園となるよう、愛称名の募集を含め、丁寧に検討していく。

若者の自立支援について

問 児童養護施設開設に向けて準備を進める今、その施設を退所し巣立っていくケアリーバーへの支援について、検討状況を含め、区の見解を問う。

答 児童養護施設は、令和5年4月開設に向け建設が進んでいる。荒川区が措置した退所児童には、住居契約時の支援等の実施に向けて準備を進めている。また、措置した自治体に関わらず区内施設の退所者には同様の支援を行う。

問 困難を抱える子ども達が、社会に出ても地域と関わりを持ち、地元で暮らし続けられるように、相談窓口を設置し、切れ目ない支援を18歳以降にまで繋げるよう要望するが、区の見解を問う。

答 区では、様々な悩みや不安を抱える若者からの幅広い相談を受け付け、それぞれの課題に適した関係機関に早期に繋ぐ体制を新たに構築することにより、若者の社会的自立を後押ししていく。

その他の質問項目

- 荒川遊園による荒川区の活性化について
- 新たな観光資源の発掘について



子育て支援策と企業・団体への支援と活用について

保坂 正仁(公明党)



子育て支援策について

問 義務教育終了とともに途切れない「切れ目のない若者支援システムの構築」について見解を問う。

答 現在はそれぞれの部署で対応しているが、わかりやすく相談しやすい新たな支援体制を整備する。

問 少子化対策も視野に入れ、第3子以降の児童の給食費無償化の実現を求めるが、見解を問う。

答 多子世帯の負担軽減が図れるものと認識し、先行自治体の状況を検証しつつ区の方針を検討する。



◀ 小学校の給食の様子

企業・団体への支援と活用について

問 区を通じて社会貢献をしたい企業や団体による、仮称「あらかわ応援隊」の創設を提案する。

答 これまで区が進めてきた取り組みを充実させる提案であり、さらに発展できるよう検討していく。

問 区ホームページへの、仮称「あらかわ応援隊」のサイトの立ち上げを提案するが、見解を問う。

答 各分野で連携・協力頂いている事業者等を掲載しているページを活用する方向で検討する。

問 応援隊の応援実績の掲載と企業・団体を紹介し周知に努めてはどうか、区の見解を問う。

答 各事業者による地域貢献の実績や取り組み内容を含め、効果的に周知できる方法を検討していく。

問 サイト内で区からの協力要請と企業側の支援内容を紹介し、マッチングしてはどうか。

答 区のニーズと事業者等による具体的な支援策がうまくマッチングできるよう、ホームページ等の活用を含め、より効果的な方法を検討していく。



子育てしやすい街あらかわの宣言と区民の参政権保障について

斉藤 邦子(共産党)



子育てしやすい街あらかわを宣言し施策を展開すること

問 おむつ等0才児への定期便を始めること。

答 新生児の育児支援や産後ケア事業の充実を図るなど、切れ目のない子育て支援を行っている。

問 私費負担となっている教材教具を総点検し、私費負担の軽減と公費を拡大すること。

答 専ら児童生徒本人が消費、使用するものは保護者負担とするなど、引き続き適切に判断する。

問 高校・大学の奨学金返済支援制度をつくること。

答 国においても返還を要しない給付型奨学金を行っており、国の動向を注視し、適切に対応する。

区民の参政権保障のために

問 投票当日の負担を軽減するため、投票支援カードを入場整理券とともに郵送すること。

答 既に導入に向けた検討を進めている。

問 障害がある有権者の投票支援を具体化すること。

答 これまでも、様々な取り組みを進めているが、更なる投票環境の整備に努めていく。

問 子どもの意見表明権の具現化のために、中高生議会を検討すること。

答 次代を担う子ども達が様々な形で区政に参画し、自分の考えを表現できる取り組みを行っていく。



▲出前授業の一環としての模擬投票の様子

その他の質問項目

- 高齢者の暮らし応援のために
- 都立高校入試スピーキングテストは直ちに中止を求めること



アスベスト含有事前調査結果報告の義務化と区民の健康を守ることについて

北村 綾子(共産党)



解体・改修工事において義務化されたアスベスト含有事前調査結果報告について

問 今年度から調査結果の報告が義務化されたアスベスト有無の事前調査について、アスベスト含有調査及び除去に係る費用助成を行うこと。

答 資格認定者による調査が令和5年10月から義務化されるなど、現在は制度的な過渡期であり、今後、支援の必要性も含め検討していく。



▲アスベスト含有調査報告についてのチラシ(厚生労働省)

区民の健康を守るために

問 早期発見のため、がん検診で希望者には大腸内視鏡検査の実施、特定検診の血液検査項目にPSA検査、前立腺がん検査の項目の追加を求める。

答 国の指針に追加された際には、迅速に導入する。

問 がん患者の日常生活を維持するために、ウィッグ、補正具を補助することを改めて求める。

答 他自治体の取り組み事例を研究する中で課題は多いが、生活の質の向上等に向けて検討していく。

問 新型コロナウイルス感染症罹患後の後遺症とワクチン副反応の現状把握を求める。

答 都の調査結果とほぼ同様と認識しており、近隣医療機関や都の相談窓口の協力の下対応している。

問 流行を抑え、重症化を防ぐためにも、子どものインフルエンザ予防接種費用の助成を求める。

答 重症化リスクの高い一部の乳幼児について、一定額を助成する準備を進めている。

その他の質問項目

- 子どもの学びとあそびを保障するために